

# 災害から助け合う 「小針防災五人組制度」

学 社 民

融合による  
防災教育



## 新潟市立小針小学校

### 新潟地震(50年前)

発生日時 1964年6月16日13時1分  
震源地 新潟粟島南方沖40km  
地震の規模M7.5



### 中越地震(10年前)

発生日時 2004年10月23日17時56分  
震源地 新潟県中越地方  
地震の規模 M6.8



学校（児童・生徒）も、保護者・地域住民とともに防災意識を高めていく

# 小針小プランの作成

～どんな状況でも冷静に判断し、自分の命は自分で守る子どもの育成～

## 特徴 1

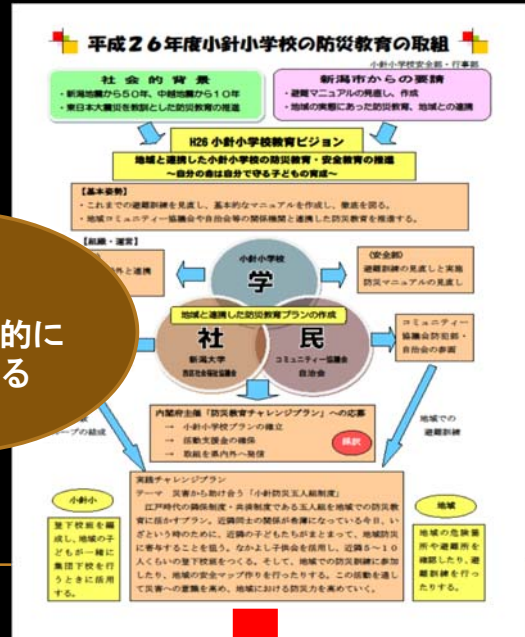
地域と連携して行う防災教育  
(学、社、民との融合した防災教育)

**学** 小針小学校

**社** 西区役所 新潟大学 等

**民** 地域コミュニティ協議会 自治会 等

学校発  
地域に積極的に  
働きかける



各家庭・地域に配付・回覧

## 特徴 2

地域の危険箇所・避難場所を知り、  
地域防災に積極的にかかわる

## 特徴 3

「小針防災五人組制度」への挑戦

チャレン  
ジプラン

地域社会の現状

- ・ 家の近くに住んでいる人の情報が分からない
- ・ 自治会によって地域防災の温度差がある

「小針防災五人組」とは...

→子どもたちが核になって地域住民がまとまる取組

内容

- ・ 学校の町内子ども会を活用
- ・ 家の近い子ども同士で五人組をつくる  
(多くても10人以下、登校班)
- ・ 自治会長、民生委員、子ども会役員、保護者がサポートする

活用方法(例)

- ・ 集団登下校
- ・ 地域の安全確認
- ・ 縦割り活動
- ・ 地域行事への参加

成果

- ・ 近所の子どもたちが仲良くなる
- ・ 地域の安全を確認する

- ・ 将来、地域の防災に役立つ人材づくり
- ・ 学校が主体となって行う地域再生の取組

社

新潟大学松原教授からの指導



# 学校と地域が連携した防災教育の実際（その1）

## 1 学校の避難訓練に地域住民が参加（6月16日）

- ・ 津波を想定して屋上に避難
- ・ 新潟地震、東日本大震災の体験談
- ・ 保護者への引き渡し訓練

学

民

小針地区  
コミュニティ協議会



地域コミュニティ協議会との  
打合せ（その後、年3回実施）



避難訓練当日、200人以上の地域住民が新潟地震が  
発生した同時刻に、小針小学校へ避難した。



児童は屋上に避難した後、東日本大震災で被害に遭った、当時仙台市立東六番丁小学校の校長先生からお話を聞いた。

### 《避難訓練の感想》

・ 投票で訪れない限り小針小学校に入る機会がないので、1年に1回はこういう訓練をすることが大切だと思います。普段から「地域と共に」活動するつみ重ねがあるから成し得た訓練だと思います。階段の右側歩行は、今後も訓練する余地がありました。（地域の方より）

### 《講演会の感想》

・ じしんがおきたときのえいぞうや、話をきいて、じしんはとてもこわいんだなと思いました。大きなじしんでも小さなじしんでも、先生や大人の話をよくきいてこうどうしたいです。（2年生）

・ 小さなおにぎりを、ぐあいのわるい人、赤ちゃんを育てているお母さん、子どもからじゅんばんに分けたことはえらいと思いました。えきからきた旅行客もさべつせずおもてなしをしたこともすごいと思いました。もしもじしんがおきたときは、すぐにひなんできるようにがんばりたいです。（4年生）

・ 地域の団結力がすごいなと思いました。みんなで工夫して困難を乗り越えていく姿はすごくかっこいいです。みんなが落ち着いて行動していて、大勢の人が無事にひなん生活を送れたのはそのおかげかなと思いました。大きな地震や津波が起きたら、冷静に行動するのはとても難しいことだと思います。だから東六番丁の人たちはすごいと思いました。今まではあまり気にしていなかったけど、ひなん訓練って大切だなと思いました。（6年生）

・ 渡部校長先生のリーダーシップと全体像をつかんだ慌てない姿勢に、避難者の方々は身を任せ、救われた思いだったと思います。今回いただいた知恵をもとに、いざという時の流れを把握し、提案する力を一人一人が持ち合わせて対策を考え、勇気を持って実践しなければと考えさせられました。（保護者）

# 中間発表会（10/4～5）のご指導を受けて

## ●新潟市（小針地区）ならではの防災教育の実施

### ・大規模校（児童数681人）、新興住宅街

（全職員、全校児童を動かすことの難しさ）

（自治会全てを網羅することの難しさ）

→無理なく出来ることから 継続が肝心

### ・大雨による浸水、地震による液状化

→大雨による浸水を想定した避難訓練の実施

## ●楽しみながら学ぶ防災教育

→五人組を活かす活動の実施

→幅広い防災教育

## 学校と地域が連携した防災教育の実際（その2）

### 2 学校地域合同防災訓練 9月20日（土）

想定→休日（休業日）の朝、  
7時50分に地震発生

学

社

新潟市西区役所  
新潟西消防署等

民

小針地区  
コミュニティ協議会

#### ①地域の避難所に避難・集合（児童・地域住民）

→地域の避難所を確認

#### ②自治会長、地域役員からのお話・顔合わせ （避難訓練実施）

#### ③児童と住民による登校（防災五人組による登校）

#### ④小針小学校グラウンド・体育館で、地域住民と共に防災 訓練を実施



想定→休日（休業日）の朝、7時50分  
新潟沖震度6強の地震発生 火災による延焼の恐れ



予め決めてあった各自治会の避難場所・集合場所に五人組で集まり、自治会役員のリードのもとに人員確認と顔合わせが行われた。



その後、地域住民と保護者に見守られながら、五人組で二次避難場所である小針小学校へ移動（登校）した。



総勢 約1100人の防災訓練



# 防災訓練の様子



新潟市西区長の挨拶

6つの防災コーナーを地域住民と一緒に体験して廻る



バケツリレー訓練



消火器取扱訓練



濃煙体験



心肺蘇生法  
AED取扱訓練



応急手当訓練



防災に関するビデオ鑑賞

## 学校と地域合同避難訓練の感想

- ・非常の際にすぐ行動するには避難場所の確認や、日々の防災訓練が必要なので、このような機会はとても重要だと思います。（地域）
- ・学校を中心に、地域全体が参加する防災訓練は、今回初の試みということですが、これからも地域が一体となった防災訓練を続けることで、災害に強い小針地区になれると感じました。（保護者）
- ・朝は、地域の人がたくさんいて心強かったです。学校に着いてからも、たくさんの地域の人と体験した防災訓練は楽しかったし、ためになりました。来年もまた体験したいです。（児童）
- ・地域の人に見守られている感じがしました。いつも見守ってくれている地域の人と訓練ができてよかったです。わたしも、いざというときは、地域の人たちの役に立ちたいです。乾パンは始めて食べたけど、おいしかったです。（児童）



乾パン試食体験



地域と合同防災訓練の初開催を  
記念して中庭に植樹が行われました  
(新潟市教育委員会の事業として)





# 防災へ地域一丸

西区・小針小とコミ協

## 消火活動を体験



### 命を守る意識高め

#### 児童・住民1100人世代超えて協力

新潟市西区の小針小学校と小針小学校区コミュニティ協議会は、合わせて防災意識を高める取り組みを行っている。コミ協だけで実施していた防災訓練に小針小の全校児童が参加。災害に備え、世代を超えた住民一体の地域を目指す。

内閣府などの「防災教育チャレンジプラン」に本年度選定されたことを受け、小針小は地域と連携した防災活動に取り組んでいる。「自分の命は自分で守る子ども」をテーマに、6月には学校主体の避難訓練に住民が参加したほか、東日本大震災の体験談を児童が聞くなどした。

20日には小針小とコミ協の初めての合同防災訓練が行われ、児童、住民ら約100人が参加した。午前7時50分、新潟沖に震度6強の地震が発生し、火災と延焼が起きたと想定。児童は5、10人程度のグループで、自治会役員と共に集団登校した。

グラウンドでは、子どもたちが住民と一緒に消火器の使い方やバケツリレーなどを体験。消防団員の指導を受けながら消火器を使ったり、水の入ったバケツを次々と運んだりしていた。

3年の波多野瑞希さん(9)は「バケツリレーでは、たくさん来るバケツを渡すのが大変だった。消火器の使い方などが分かり、勉強になった」と話していた。

コミ協の岩脇正之会長は、「地域と学校が一体となって取り組むことで、防災の意識をさらに高めた」と語った。

## 学校と地域が連携した防災教育の実際（その3）

### 3 地域（自治会）主催の避難訓練に五人組が参加



#### 小新自治会の例

※他にもいくつかの自治会で実施されました。

～10月4日(土) 地震による津波を想定した避難訓練～



地域の第一次避難所に五人組で集合



人員確認が行われる



要介護者を運ぶ



災害協定を結んであるアピタ新潟西店屋上駐車場へ移動



グループ毎に振り返りを行って終了



# 大雨による浸水を想定した避難訓練(1月9日)

学 = 社

小針地区 → 土地の低さが低く、場所によっては、海拔0mからマイナスになる地点もある。学校の周辺も0m地帯で、過去には大雨が降ると冠水する被害も発生している。信濃川から遡ってくる津波による被害も懸念される地域である。一方、砂丘地帯では大雨による土砂災害が懸念され、JR越後線も、普通になることがしばしばある。

**特徴 2**  
地域の特徴を知る



小針小学区のハザードマップ

## 各種のハザードマップを教えてくださいました

- 津波
- 洪水
- 大雨による浸水
- 地震による液状化



大雨による浸水のハザードマップ



地震による液状化のハザードマップ

土地が低い小針小学校は、必ずしも安心とは言えない



## 訓練の流れ

活動1 → 西区総務課安心安全係の方から小針地区のハザードマップを提示してもらい、全校児童が危険地域を把握する活動



活動2 → 小針防災五人組で地域のハザードマップをもとに、避難場所・集合場所を確認



活動3 → 小針防災五人組で集団下校をしながら、避難場所・集合場所を確認



ハザードマップの説明



五人組で確認



集団下校の様子

## 児童の感想

- ・ハザードマップで見ると、自分の家の周りの大雨や洪水の時の危険な場所がよく分かった。
  - ・実際に歩きながら確認すると、地図では分からない高い建物が確認できた。
  - ・小針は2時間以内に津波が到達するので早く避難しなければならないことが分かった。
- 等



2014年度に内閣府に選定された小針小の「防災教育チャレンジプラン」の一環。小針地区は海抜ゼロ以下の地帯が多く、大雨の際などに冠水しやすいため、市が浸水想定をまとめたハザードマップを初めて取り入れた。

児童らは、区役所の担当者からマップの説明を受けた後、町内ごとに分かれ、マップを手に通学路で浸水しやすい道路や、万一の際の避難場所を覚えた。

5年生の鈴木心菜さん(11)は「いつ災害が起こるか分からないので、しっかり準備したい」と話した。

### 新潟・西区

### 大雨備えしっかり

大雨などによる浸水を想定した避難訓練が9日、小針小で行われた。全校児童がハザードマップを活用し、通学路の危険箇所を確認した。写真

楽しみながら学ぶ防災教育(1)

学 = 社 = 民

# 第5回小針納涼大会

8月23日(土)  
参加延べ人数約2,100人



西区役所の防災コーナー等も人気のアトラクション



盆踊りやステージ発表、体育館のゲームコーナー等、楽しいイベントがいっぱいです。



たくさんの屋台が並び、調理場は大忙しです。この経験がいざというときの炊き出しに役立ちます。

## 楽しみながら学ぶ防災教育(2)

学

### 五人組を活用した児童会縦割り遊び ～小針ウインターフェスティバル～



先生とのジャンケンラリー



五人組クイズラリー

妖怪ダンスで盛り上がり



仲良しになれました



答え合わせ



# 実践のまとめ ～25年度の成果と課題～

## 成果

- ・地域との連携が深まり、学校・地域全体の防災意識が高まった。
- ・地域、行政等と連携した防災教育、防災訓練の礎ができた。
- ・防災五人組の関係、地域住民との関係が深まり、これまで以上に児童の安全が確保できるようになった。

## 課題

- ・五人組を活用した地域住民への発信
- ・全ての自治会への浸透
- ・教職員の理解



地域住民も参加した1年生の防犯教室

## 今後に向けて

- ・ 防災五人組のさらなる活動の場を広げるために、学校の教育活動の中に積極的に取り入れる。  
(児童会行事・遠足等)
- ・ 地域と連携した安全マップ作り
- ・ 楽しみながら学ぶ  
防災教育の継続、推進



地震による津波の恐ろしさを学ぶ授業  
(1年生)